

<p>第4期横浜市子ども・子育て会議 第9回保育・教育部会  第32期横浜市児童福祉審議会 第10回保育部会 合同会議 公開議事会議録</p>		
日 時	令和2年9月7日(月) 18時00分～19時45分	
開催場所	市役所18階 みなと6・7会議室	
出席者	神長部会長、石井副部会長、大庭委員、尾木委員、鈴木委員、天明委員、新堀委員、森委員	
欠席者	飯塚委員、松本委員	
開催形態	一部非公開	
議 題	<p>(公開)</p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>議事1 子ども・子育て支援事業計画の点検評価について</p> <p>(非公開)</p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>議事2 私立幼稚園2歳児受入れ推進事業の事業者選定について</p> <p>議事3 幼保連携型認定こども園の認可について</p> <p>議事4 幼稚園型認定こども園の認定について</p> <p>【児童福祉審議会】</p> <p>議事5 民間保育所等ブロック塀安全対策事業の補助金交付先法人の審査について</p> <p>議事6 小規模保育事業の認可及び改修費補助金交付先法人の審査について</p> <p>議事7 法人の自主財源による整備に伴う小規模保育事業の認可について</p> <p>議事8 家庭的保育事業の認可及び改修費助成金交付先の審査について</p>	
議 事	<p>事務局</p> <p>神長部会長</p> <p>神長部会長</p> <p>事務局</p> <p>大庭委員</p> <p>神長部会長</p>	<p>議事「子ども・子育て支援事業計画の点検評価」について事務局から説明。</p> <p>ただいまの説明につきまして、質問、意見がありましたらお願いします。</p> <p>待機児童数の項目について、前年度に比べたら19人減っているのに、C評価になっている。待機児童数が0にならない限り、評価は上がらないということなのでしょうか。</p> <p>昨年もC評価は厳しいのではないかという意見をいただいたが、待機児童0は、本市として優先して進めている施策の一つであり、今後も目指していくという意味も含め、C評価としています。</p> <p>A評価でいいと思いますが。</p> <p>A評価は難しいかもしれないですね。でも、努力しましょうという意味のC評価なんですよね。19人減ったというのは、状況も変わったのでしょうか、様々な施設を工夫して使うようになってきているのではないかと思います。</p>

	<p>天明委員</p> <p>事務局</p>	<p>数の基準が気になります。待機児童数の27人というのが、ニーズはどこにあって、この27人が残ってしまうのか。以前、全国で基準を統一したときに、横浜市の基準と、全国の基準が違うという説明があった。この27人という基準について、詳しく教えていただきたい。</p> <p>待機児童の基準ですが、希望する保育所に入れないお子さんについてはいわゆる「保留児童」という言い方をしていますが、この4月時点で3,421人いました。そのなかで、4月1日現在で育児休業中の方、認可保育所には入れなかったけれども、横浜保育室や、幼稚園の預かり保育に預けている方等、保留児童の中から全国の定義に基づいて、数を引いていき、最終的に待機児童という全国統一の考え方で27人となります。</p> <p>昨年度ぐらいから、法改正により、育児休業を2歳まで取得できることが、一定程度、企業でも浸透してきたということもあり、子どもが2歳になるまで取得したいという方が増えてきているように思います。ただ一方で、国の法律では、保育所に入れない前提で、2歳になるまで延長できるということになっています。そのため、本当は育児休業を延長したいが、形式上申し込まざるを得ないという方が増えてきています。その方々も、先ほど申し上げた3,421人に含まれており、今年の4月では、1,265人が育児休業関係ということになってきます。</p> <p>本当にどこにも入れなかった方が、最終的な集計結果として27人ということになっていますが、我々としては、本当に困っている方が27人というふうには捉えておりません。結果として、横浜保育室等を利用されている方の中にも、本当はもっと近いところで通いたいという方もいます。できるだけ一人ひとりの希望に沿えるように案内したり、保育所整備を含め、既存の資源の活用も進めたりしていきたいと思っています。</p>
	<p>石井委員</p> <p>事務局</p>	<p>近年、保育経験が少ない園長の配置が予定されており、基準点ぎりぎりでも認可されているケースも多い。これに対して、園長経験者たちがアドバイザーになって保育所等に指導に行くという説明を聞いているが、その人たちの活躍ぶりというのは資料中のNo.3の①「保育所職員等研修参加者数（各区連携研修含む）延べ人数」に含まれるのか、具体的にどこにどのぐらい含まれているのかが知りたい。あまりにも数が増えてきたので、1人何園ぐらいを回って、どれぐらい指導されているのかを、分かる範囲で教えてください。</p> <p>資料中のNo.3の中にも一部含まれています。資料中に園内研修・研究サポーターと記載があるとおり、現在10人の園長経験者がサポーターを担っており、令和元年度は新設園等71園を回りました。これも1日限りではなく、園によっては3回ぐらい訪問し、保育の様子を伺い</p>

	神長部会長	<p>ながら、アドバイス等しています。</p> <p>では、ほかに意見はございませんので、委員の皆様伺います。</p> <p>当部会の意見としては事務局の示したとおりに認めることとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(一同了承)</p>
--	-------	--